

## 飲み会俳句（飲み俳）のすすめ

宗匠 上村 泰裕

### 【定義】

「俳句はレトリックの煎じ詰めたものである」「扇のかなめのような集注点を指摘し描写して、それから放散する連想の世界を暗示するものである」（寺田寅彦「夏目漱石先生の追憶」に紹介された漱石の言葉）。

### 【心得】

- ① 五七五で作ってみる（八四五などになってもよい。リズムを楽しむ）。
- ② 季節感のある言葉を一つ盛り込むとよい（季語にはこだわらない）。
- ③ 言葉遊びの楽しさ、発見の面白さを大事にする。
- ④ 「美しい」とか「感動した」とか言わずに発見を伝える。
- ⑤ 社交を大切にして、その日その場の集まりにふさわしい句を工夫する。

### 【例句】

菜の花や月は東に日は西に 与謝蕪村  
青空や花は咲くことのみ思ひ 桂信子  
山又山山桜又山桜 阿波野青畝  
あめんぼと雨とあめんぼと雨と 藤田湘子  
せんふうきああああああおとおお 山本咲良  
金魚にもある溜息のやうなもの 杉田菜穂  
山頂に流星触れたのだろうか 清家由香里  
木の葉ふりやまずいそぐないそぐなよ 加藤楸邨  
産業革命以来の冬の青空だ 福田若之  
月といふのですか、巨きな石ですね。 御中虫

### 【進行】

- ① 箸袋の裏に無記名で句を書いてもらい、全員の分を集める。
- ② 二つずつ取り出し、多数決でトーナメント戦を進める。
- ③ 優勝句の作者に名乗り出てもらい、飲み代を無料にする。